

新型コロナ禍の下

市民のいのちと暮らしを守り支える市政を求めて！

日本共産党市議会議員 塩原孝子

たか子のあしたか通信



第6号 2020年7月発行

発行責任者： 塩原 孝子

連絡先:松本市寿北 5-15-27

Email : takako092@outlook.jp

0263-27-1122 (共産党)

共産党市議団は新型コロナ危機に対して市民のいのちと暮らしを守るために市民の声を届けて7回申し入れを行いました。国の対応が進まない中、積極提案で市政に反映させました。



松本市コールセンター

松本市コールセンター（総合相談窓口）開設

4月23日から新型コロナ感染症を巡る問題や健康不安、学校や各種施設の対応など様々な相談に一元的に応じ、現在は、給付金・事業者向け支援金などの相談に応じています。市民の不安が増大した期間は、土日・祝日も対応しました。



街立の奥に医療テント

全国に先駆け、PCR検査の充実

松本市立病院に発熱外来センターを開設、通常の外来窓口を通して検査ができ、体制が充実しました。さらに、かかりつけ医でもできる体制や財政補助を提案しています。



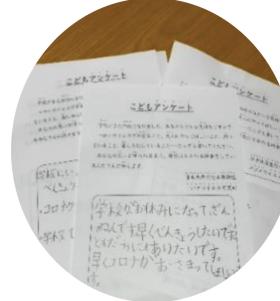
事業継続のための最大3000万円の融資を無利子無担保に

金融公庫の融資で事業を続けられるように、借り換えもできます。事業主への給付制度の充実がさらに求められます。

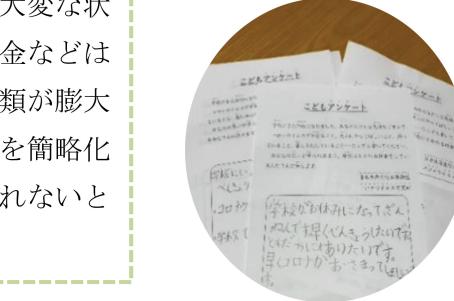
声

飲食店は再開しましたが、テイクアウトなど新しい試みを始めるにもお金がかかります。建設業は夏の仕事がキャンセルになるなど大変な状況が続いています。国民の声に押されて実現した支援金・給付金などは業種が限られて、申請がインターネットだけだったり、添付書類が膨大だったりで、申し込みを諦める人も少なくありません。手続きを簡略化し、審査は後回しにして給付をしてくれなくては商売を続けられないという声が上がっています。(松本民主商工会)

100人をこえた 子どもの声



100人をこえた 子どもの声



声

コロナが流行し始めてから3か月間、休校やリモートワークとなり学童クラブ・児童クラブの需要は上りました。しかし、子ども達・職員への感染拡大防止のため保護者の方々への協力をいただきながらの開所。保護者の皆様は毎日のお弁当、マスクの着用など大変だったと思います。中でも勉強面で算数・国語はなんとかなるが社会・理科は教科書を読みこまないと進めないため、仕事を続けながら勉強を見るのは厳しかったと聞きました。また、ステイホームは運動量も減り体重増加の心配の相談も受けました。保護者の不安や要望に今後も応えてほしいと願います。(寿学童クラブ 関 恵美子)

臥雲市長に「コロナ禍の下での

生活保護行政の改善」の申し入れ



5月22日の「生活保護行政の改善など」市長に申し入れ

市民の運動が実り、生活保護課などの窓口に設置されていた「防犯カメラ」の運用が停止されました。「生活保護申請を余儀なくされる方々に心理的影響を与えることはしてはいけない」との市長の考えですが、さらに人権に配慮して撤去を求めました。また、釧路市のボランティアを含む中間就労などを認める自立支援の取り組みや当事者も参加する第三者機関の設置で「保護のしおり」の見直し、ケースワーカーの増員が実現できた小田原市を紹介し、要望しました。また、コロナの影響で生活保護の申請が増加している中、職員の増員を求めました。市長からは「他市の出来るだけ幅広い事例を取り込みながら手立てを考えたい」との答弁でした。

こどもアンケートに取り組み、子どもたちの声を届けました。

「コロナに感染するのが怖い」「早く学校に行って友達に会いたい」「勉強したい」等々。6月から授業が再開になりましたが、詰め込みではなく子どもに寄り添う教育が求められます。日本共産党は20入学級を提案しています。

みんなの声を届け 実現させました！！

介護保険適用の福祉用具購入や住宅改修費用を 最初から1割負担だけの支払いに



昨年6月議会の一般質問で取り上げた施策が実現しました。今まででは、介護保険適用の福祉用具や住宅改修費用を全額支払い、後日9割分が戻ってくる「償還払い」という方式をとっていましたが、6月1日から負担割合だけの支払いの「受領委任払い」に変わりました。住民税非課税世帯が対象ですが、負担割合のみの支払いになるので、サービスを利用しやすくなり一歩前進しました。市民団体の要求運動も力になりました。

水道局の窓口カウンターに仕切りができ、 相談やすい環境になりました。



水道料金滞納で水道が止められた市民の相談をきっかけに滞納相談などで人権に配慮した相談窓口を要望し、昨年12月議会一般質問で改善を求めました。相談者が相談しやすい環境が整いました。込み入った相談は別室の利用も出来ることになりました。

ほっとひといきコーナー



2人目の孫が5月に誕生しました。コロナ禍の中で里帰りの出産は両親学級も参加出来ず、出産の立ち合いも出来ず、パパさんも県外をまたいでの移動制限もあり不安の中での出産で大変でしたが、無事に出産できてほっとしました。この時期の妊婦さんはどちらも不安の中での出産ではなかったでしょうか。

久しぶりの沐浴やミルク、おむつ替えなどあたふたしながらも育児に参加し、すぐすぐと育つ孫を腕に抱くと優しい気持ちになります。赤ちゃんが家に居ることは周りを幸せな気持ちにしてくれます。

「こども達に平和で暮らしやすい、ひとりひとりの夢がかなえられる社会を」と益々頑張らねばと思う日々です。

(孝子)



委員会審議後に「アルプス福祉会」と「ケ・セラ」の代表と懇談する塩原議員

6月19日、障害福祉事業所の「アルプス福祉会」と「ケ・セラ」の代表が障がいのある方の暮らしと障がい福祉作業所の現状を訴え、新型コロナ対策について市に支援を求める陳情を市議会に提出しました。

教育民生委員会での行政側の説明が、障がいのある方が感染した場合に病院でなく施設で対応するよう求めていることに違和感を持ちました。

主な要望項目

- ・障がいのある方が感染した場合、グループホームなどで治療は難しいので医療機関での受け入れ体制を
- ・入院時には支援者(家族)が同行できるように
- ・障がい者就労事業所で働く方の工賃が減っている。工賃保障の施策と実態把握を
- ・居宅介護の事業所の減収に対する支援がないので支援と実態把握を

施設内でのゾーニングは大変難しい状況があります。又、作業所での仕事も減り工賃も減っています。事業所の経営も危ぶまれる実態であることが分かりました。そもそも福祉は公的に保障されるべきものです。今回は趣旨採択になりましたが、引き続き実態を行政に届けてしっかりと公的に支援すべきことを事業所の皆さんと一緒に訴え続けていきたいと思います。

障がいのある方、障がい福祉作業所への支援を求める陳情、趣旨採択されました。

暮らしの相談から



- *10万円の定額給付金の申請方法など高齢者の方に支援しました
- *生活保護に関する相談をお受けし、保護課につなぎ対応の改善がきました。
- *親族の支援がえられない障がいのある方が住み慣れた自宅、地域で暮らし続けられるよう地域のみなさんとの情報の共有や役割分担について行政と地域の方と話し合う機会を持ち、多くの関係者で支えあうことを確認することが出来ました。